

# 地域そのものが ミュージアム!

# ちのミュージアム・ピクニック

実施日 2018年11月～2020年2月【全4回】

ココが  
ポイント!

1. ミュージアム＋地域の文化を体験!
2. ストーリーのある解説!

ちのミュージアム・ピクニックって?

もっとみんなにミュージアム(美術館・博物館)に親んでもらいたい!という思いで、はじめた企画。「ちの旅案内人」がガイドを務め、定員20人のマイクロバスで、丸一日かけて市内を見て回ります。毎回、茅野ならではのテーマを定め、ミュージアムを順番に訪れるだけでなく、市内の様々なスポットもめぐるのがポイント。文化・芸術を育んだ茅野のまちそのものを、テーマに沿って見直すことで、見慣れたまちが一変します。

企画協力: 一般社団法人ちの観光まちづくり推進機構



レポート  
ちのミュージアム・ピクニック

レポート  
ちの編む  
みんなのサロン

茅野市文化芸術推進事業とは? ▷ 茅野市内のミュージアム(美術館・博物館)と関係機関による連携事業です。※当事業は「令和2年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業」の補助事業です。  
【主催】茅野市文化芸術推進事業実行委員会  
【お問合せ】茅野市美術館(茅野市民館内) Tel.0266-82-8222

## ピクニック1 2018.11.11 自然と諏訪の信仰



### 「自然を敬う精神」が文化の原点

茅野市に住む人で、「諏訪大社」の名前を知らない人はいないでしょう。七一年一度の御柱祭をはじめ、普段の暮らしにも深く根づいている諏訪信仰は、古代から続く自然を敬う精神が特徴。八ヶ岳総合博物館で諏訪信仰の概略を学んでから、諏訪大社上社前宮の境内を散策し、神長官守矢史料館のお祭りの復元展示で自然の生命への思いを感じます。茅野市美術館では茅野出身の藤森照信氏の企画展示を観覧し、藤森氏の自然と調和した建築作品の中に、茅野ならではの精神が潜んでいることを知ることができました。



## 縄文と 八ヶ岳の恵み

### 縄文から続く「鹿狩り」の伝統

なぜ、茅野が縄文時代から栄えていたかわかりますか? その答えは「山の恵み」があったから。なかでも、貴重な食料だった鹿は重要でした。かつての狩り場であったことをその名に残す御射鹿池を見て、山への愛が込められた絵画を康耀堂美術館で鑑賞し、尖石縄文考古館で縄文の人々の暮らしを思い浮かべ、神長官守矢史料館で神様に鹿を捧げた古代の祭祀を学びます。ツアーの最後は、現役猟師が店主のカントリーレストラン匠亭で、リアルな鹿狩りの話を聞き、鹿肉を味わって、縄文から続く山の恵みが現在もここで息づいていることを感じてもらいました。



## 八ヶ岳の恵みと 人々の営み



### 山がもたらす食料、そして水

遠く縄文の時代から、山の恵みを受けて暮らしてきた茅野。人々はただ恵みを受けてきたわけではありません。例えば美しい池として知られる御射鹿池は、冷たすぎる山の水を温めて農業に使うためのため池。今も池を利用する笹原地区の人のガイドによるまちあるきで知恵と工夫を聞き、康耀堂美術館で八ヶ岳を愛した芸術家たちの心に触れます。尖石縄文考古館で縄文人の食生活を聞いてから神長官守矢史料館で鹿食(諏訪大社が出している鹿を食べてもよいというお礼)の展示を見て、この地にとっての山の大切さをあらためて感じてもらいました。



## 厳しい寒さが生んだ伝統の文化

初の厳冬期に開催された第4回は、当初の不安にもかかわらず満員御礼。実は「茅野ならではの」は冬が本番。八ヶ岳総合博物館に展示されている信州のこぎりや寒天製造が茅野で栄えたのも、農業ができない冬に農家の手仕事として発達したから。笹原地区では寒くて乾燥した気候を活かしてつくる保存食、凍み大根や凍み豆腐を使った郷土料理作りを一緒に体験し、泉野の穴倉では農家の冬のわら仕事を見学。そして茅野市民館にて、茅野最後のこぎり職人、両角さんによる目立ての実演と職人のこだわりを聞くという贅沢な一日。まさに「地域がミュージアム」でした。



## ピクニック4 2020.2.22 凍みる冬に 生きる工夫

地元の人の話を聞こう!!

# ちのを編む

実施日 2019年2月～2020年2月【全6回】

# みんなのサロン



「ちのを編む」ってどういうこと?

地域がもともと持っている魅力に改めて光をあてて、気づきなおし、組み合わせ、つないでみたい。そんな、茅野の魅力を集める＝「ちのを編む」という視点で、地元の方々の取り組みを直接うかがう集まり「みんなのサロン」を2019年から6回開催してきました。ミュージアム（美術館・博物館）や、市民活動・生涯学習・観光・産業にかかわる機関のスタッフが進行役となり、地元の皆さんが自ら取り組んでいる活動を紹介する内容です。



## ココがポイント!

1. 地元の皆さんの取り組みを直接聞く!
2. もともとある「宝もの」を再発見!

その1 2019.2.11

## 天然寒天って何? 現場に行こう!

### 「ここならではの」文化を継いで

茅野の特産といえば天然の棒寒天。この地で育まれた伝統の食文化であり、生産量日本一を誇る茅野の地場産業です。農閑期、田んぼに寒天がずらりと並ぶ干し場の風景は、茅野の冬の風物詩。でも、どんなふうにつくられているのか地元でもふれる機会はなかなかありません。そこで、生産者の茅野さんにお話をうかがい、寒天製造工場や干し場を見学しました。「寒さが厳しく乾いた晴れの日が多い、美しい水の豊富な茅野だからこそできる」という寒天づくり。寒天干しの体験やバリエーション豊かな寒天料理のふるまいもあり、この地ならではの文化と原風景を体感することができました。



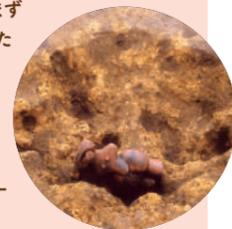
話し手：茅野文法（有限会社イリセン代表取締役社長）  
進行：栗野龍亮（一般社団法人ちの観光まちづくり推進機構）  
会場：イリセン寒天工場



その2 2019.3.9  
どうやってるの?  
縄文遺跡の発掘調査

### 大地から直に感じられる太古の営み

八ヶ岳山麓の豊かな縄文文化は茅野の大切な宝もの。市内には230を超える縄文遺跡があり、その発掘調査には地元の皆さんが関わっています。そこで、市民の作業員・補助員の皆さんから体験談をうかがいました。まずは、どのように調査を行っているか実際の用具を使った寸劇からスタート。土器修復の実演など、ふだんの様子が見られる楽しいひと幕もありました。発掘では、実際にこの地で営まれていた暮らしに直に触れるような感覚があるといい、自然条件に左右される厳しい作業でも夢中になってしまう……といったエピソードなど、さまざまな思いにふれることができました。



話し手：茅野市教育委員会発掘調査作業員・発掘調査補助員の皆さん  
進行：小池岳史（茅野市尖石縄文考古館係長）／会場：茅野市尖石縄文考古館

その3 2019.3.21

## 「食」でつなごう! 地域の暮らし



### 暮らしの楽しみ 手から手へ



茅野市内では地区ボランティアの皆さんがそれぞれ独自の活動を展開しています。そのなかから豊平地区ボランティアの会の皆さんに、茶のみサロンや料理教室、お年寄りへの宅配弁当づくりといった食にまつわる活動についてうかがいました。弁当づくりでは、天寄せなどの郷土料理や味わいを考えたメニューなどひと工夫。人気の「白和え」「凍み豆腐の卵とじ」を実際につくって試食し、日々の集まりに参加したような雰囲気を楽しみました。「ボランティアの枠にとらわれず、好きなときに好きなことを楽しんでいる」といい、生き生きとした暮らしぶりが人から人へ届けられているという印象を受けました。

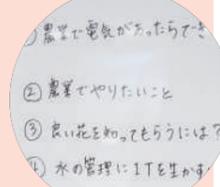
話し手：豊平地区ボランティアの会の皆さん  
進行：野明香織（茅野市市民活動センター「ゆいわーく茅野」）、鈴木敦子（社会福祉法人茅野市社会福祉協議会）  
会場：豊平地区コミュニティセンター

その4 2019.12.14  
掛け合わせるとどうなる?  
農業とITを



### 未来に向けて対話のコミュニケーション

コワーキングスペース「ワークラボ八ヶ岳」では、企業・市民・別荘利用者・中高生などのさまざまな関係づくりにつながるイベントを実施しています。そのひとつとして「農業とIT」をテーマにワークショップを行いました。ロボット技術やICTを活用したスマート農業に詳しい大学教授、ITエンジニア、地元で農業を営む方々からお話をうかがい、さらに話してみたいことをグループごとに語り合い、みんなで共有しました。山麓の豊かな水と大地で営まれる茅野の農業。「地域の自然の力」「茅野の未来」への思いを確認し、「否定／肯定」だけではなくコミュニケーションを経験する機会となりました。



その5 2020.2.1  
興味を活動に! 市民研究員

### 興味を深めて地域に広げるやりがい

茅野の自然・歴史・民俗・産業について、資料の展示・収集・保管・研究にあたる八ヶ岳総合博物館。子どもから大人まで、楽しみながら学習・調査研究を深める取り組みのなかで、地域住民がフィールドワークや科学工作などに携わる「市民研究員」の活動があります。現在「植物」「シダ」「キノコ」「コケ」「天文」「実験工作」「語り伝承」の7グループがあり、そのうち4グループによる活動紹介と、グループごとの分断会に参加し、活動の一端を体験しました。「会員同士の情報交換が楽しい」「仲間が増えよううれしい」といい、興味を深め地域に広げる取り組みにやりがいをもって臨む姿が印象的でした。



話し手：茅野市八ヶ岳総合博物館市民研究員（キノコグループ・天文グループ・実験工作グループ・語り伝承グループ）  
進行：両角徹生（茅野市八ヶ岳総合博物館館長）  
会場：茅野市八ヶ岳総合博物館 閲覧室・実験工作室

話し手：永明寺山ふれあいの森を創る会、市民の森を創る会、小泉山体験の森創造委員会、NPO法人八ヶ岳森林文化の会

進行：野明香織（茅野市市民活動センター「ゆいわーく茅野」）  
会場：茅野市市民活動センター「ゆいわーく茅野」ロビー



### 人と自然のふれあう場 価値を再確認

資源の宝庫・里山に囲まれたこの地では、太古からその恵みを暮らしにつなげてきました。しかし昨今では、その価値や使われ方、考え方も変わってきています。そこで、「永明寺山」、「小泉山」、「吉田山市民の森」といった地域の里山整備に関わる4団体の皆さんから取り組みをうかがい、互いに語り合いました。間伐などの整備活動だけでなく、地域住民や小中高生との自然体験、資源活用など重なる取り組みも多く、後継者不足など共通の課題も。「里山は人と自然がふれあう場所。長いスパンで考えなくては」と価値を再確認し、協力しながら関わりを増やし、魅力を広めていくことの大切さを共有しました。



その6 2020.2.15  
宝の山! 里山づくりの取り組み

「その7 観光でまちを元気にしよう!」(2020.3.15)では、住民が知恵を出し合って「観光によるまちづくり」をめざして活動し、日本のみならず外国からも多くの観光客を受け入れている笹原地区の皆さんからお話をうかがう予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止いたしました。



### 茅野市文化芸術推進事業レポート まとめ～ミュージアムの建物を飛び出して

文化や芸術というと敷居の高いもののように感じてしまう方が多いのが現実。参加者からも「ミュージアムに来たのは中学校以来」「ずっと茅野に住んでいるけど機会がなかった」という声聞かれました。本当は、文化や芸術はミュージアムの建物の中だけではなく、日常の暮らしの中にあるもの。この地の風土の中で生まれた生き生きとした暮らしこそは、茅野を形作る文化に他なりません。まさに「地域そのものがミュージアム!」です。「ちのミュージアム・ピクニック」では、茅野の人々の営みを、ミュージアムの展示とひとつの文脈の中で眺めてみました。日々の暮らしと文化・芸術とがしっかりとつながり、何気ない風景に芸術を感じたり、これまでより文化に親しみを感じたりするきっかけになったのではないのでしょうか。「ちのを編む みんなのサロン」では、熱い思いをもって活動している地元の人に語り手になってもらいました。ふだん発信が難しいそれぞれの活動の、やりがいや魅力はもちろん、伝えたい思いや困りごと、もっとみんなに知ってほしい。集った人たちにゆるやかなつながりが生まれ、これまで触れてきたことの見え方が違ってきたり、すぐ隣にある「宝ものを再発見!」する機会となりました。

### 茅野市文化芸術推進事業レポート ウェブ版

「ちのミュージアム・ピクニック」「ちのを編む みんなのサロン」のより詳しい内容をご紹介しますウェブサイトです。  
<http://www.chinoshiminkan.jp/cm-report/>



茅野市文化芸術推進事業（2018～2020年度）

- ちのミュージアム・ピクニック
- ちのを編む みんなのサロン
- 茅野市美術館と一緒にサポートしませんか
- アート×コミュニケーション茅野

茅野市ミュージアム活性化事業（2012～2016年度）

<http://www.chinoshiminkan.jp/chino-museum/>

茅野の魅力とミュージアム（日・英・中）

<http://www.chinoshiminkan.jp/chinomuseum/>